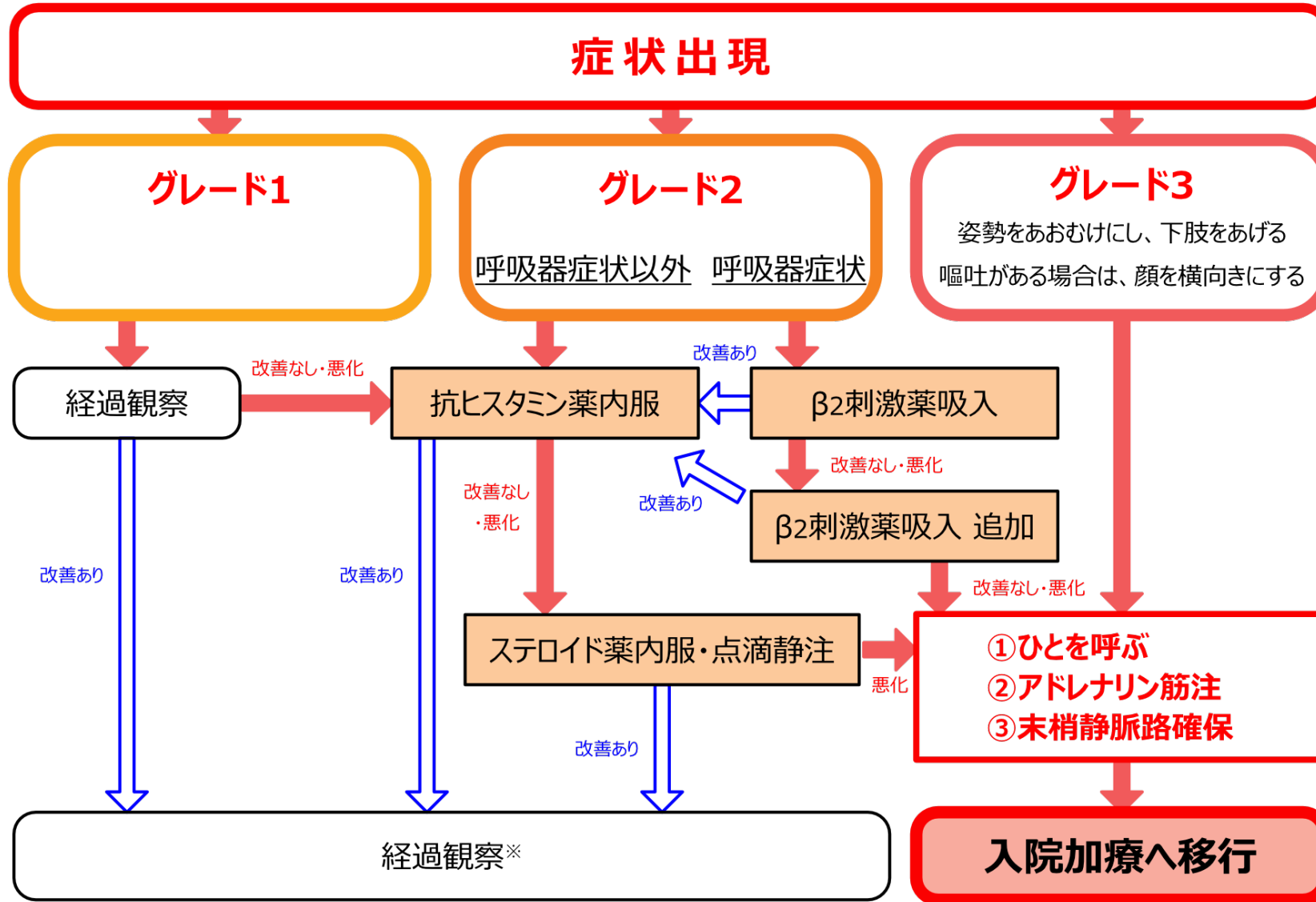


食物経口負荷試験による症状出現時の対応マニュアル



※グレード2の症状が遷延した場合には入院加療への移行を考慮

病院にあらかじめ準備しておくべき物品・薬剤

| 種類 | 一般名 | 使用法・用量の例（例示はすべて1回投与量） |
|--------------------|--|--|
| 抗ヒスタミン薬（内服） | フェキソフェナジン・レボセチリジン・エピナスチン・ロラタジン ・オロパタジン・セチジリン など | 外来でOFCを行う際にはあらかじめ処方しておく。 (例) 6か月～6歳：レボセチリジンドライシロップ 0.25g 7歳～：レボセチリジンドライシロップ 0.5g |
| 抗ヒスタミン薬（注射） | クロルフェニラミンマレイン酸塩注射液 | 筋注 または 静注で投与する。 6か月：0.5mg, 1歳：1mg, 3歳：1.5mg, 7.5歳：2.5mg, 12歳：3mg ※新 小児薬用量 改訂第8版参照 |
| ステロイド薬（内服） | プレドニゾン・デキサメタゾン | プレドニゾン 1mg/kg、デキサメタゾン 0.1mg/kg (例) ～6歳：デキサメタゾンエリキシル 10mL 7歳～：デキサメタゾンエリキシル 20mL |
| ステロイド薬（注射） | ヒドロコルチゾン・プレドニゾン・メチルプレドニゾン | 点滴静脈注射で投与する。 プレドニゾン換算 0.5～1.0mg/kg |
| β ₂ 刺激薬 | サルブタモール吸入液・プロカテロール吸入液 | 酸素・吸入器も併せて準備しておく。 (例) プロカテロール 0.3mL + 生理食塩水 1～3mL |
| 輸液 | 生理食塩水・乳酸/酢酸リンゲル液 | 駆血帯・輸液ルートも含めて、末梢静脈路が確保できる準備 をあらかじめ準備しておく。 10～20mL/kgを急速投与 |
| アドレナリン | アドレナリン | 筋肉注射 0.01mg/kg 1回最大量：12歳未満 0.3mg, 12歳以上 0.5mg |

負荷試験食品の具体例

| 総負荷量 | 負荷試験食品 | 調理方法 |
|------------|--------------------------------------|--|
| 鶏卵（少量） | 卵黄1個をつなぎとして使い調理したもの （※全て食べて卵黄1個に） | 生の状態で卵黄だけを取り出して全量を調理に使う。 蒸し焼きにするなど充分に加熱し、卵によく火を通す。 |
| | 鶏卵粉末 1包 （加熱卵1/25個相当） | ジュースなどに混ぜる |
| 鶏卵（中等量） | 全卵1/2個をつなぎとして使い調理したもの | 卵をつなぎに使ったハンバーグ、ホットケーキなど。蒸し焼きにするなど充分に加熱し、卵によく火を通す |
| | ゆで卵白 20g | 沸騰後20分ゆでて、卵白と卵黄を分けて卵白を刻む |
| 鶏卵（日常摂取量） | 全卵1個を使ったゆで卵、炒り卵、卵焼きなど | 沸騰後20分ゆでる フライパンで充分に加熱し、卵によく火を通す |
| 牛乳（中等量） | 牛乳25mlをつなぎとして使い調理したもの | 牛乳25mlを使いホットケーキなどを作る。 ※牛乳100mlで作ったホットケーキなどを1/4枚にしてもよい |
| | ヨーグルト48g | 市販のプレーンヨーグルト ※フルーツ入りは不可 |
| 牛乳（日常摂取量） | 牛乳200ml | 市販の牛乳 ※事前の加熱は不要 |
| 小麦（中等量） | ゆでうどん50g | 市販のゆでうどんまたは冷凍うどんをゆでる ※普段使用しているだし汁、めんつゆなどを持参する |
| | 6枚切り食パン1/4枚 | 6枚切り食パンを1/4枚に切る |
| ピーナッツ（中等量） | ピーナッツ3g | ピーナッツを砕き、粉末のまま、またはピーナッツを使い調理する |